

## がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんの観察日記 —筑波大学附属図書館でのキャラクター活用事例—

筑波大学附属図書館情報管理課

嶋田 晋

### 1. はじめに

筑波大学附属図書館では、平成18(2006)年4月より「キャラクター」を導入している。ガマ(カエル)をモチーフにした「がまじゃんぱー」とチューリップ(花)をモチーフにした「ちゅーりっぷさん」である。筑波大学附属図書館ではこれらのキャラクターを活用することで、利用者からの注目を集めやすくなり、同時に職員の広報意識を高めることができた<sup>1) 2)</sup>。

また、図書館界隈で著名なブロガーがこのキャラクターに注目しブログで取り上げた<sup>3)</sup>ことにより、筑波大学附属図書館外での知名度も高まり、がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんは名実ともに筑波大学附属図書館の「顔」となることができた。

本稿では、キャラクター誕生の経緯や作成にあたって苦心した点、キャラクターの評判や今後の展開、また実際の活用例について解説する。

### 2. がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんって誰?

「がまじゃんぱー」と「ちゅーりっぷさん」とは、筑波大学附属図書館が作成した「キャラクター」である。

「がまじゃんぱー」はガマ(カエル)をモチーフとしたキャラクターである。筑波山麓に生息する四六のガマから作られたとされる「がまの油」売りの口上は有名であり、古典落語の題材になったり伝統芸能として披露されたりしている。そのため、筑波山といえば「がまの油」やガマ(ガマガエル)が連想されることが多く(筑波山の土産物としても販売されている)、それに由来している。一方、「ちゅーりっぷさん」はチューリップ(花)をモチーフにしたキャラクターである。

筑波大学附属図書館の愛称を「Tulips」(Tsukuba University Library Information Public Service)という。長年親しまれ教員などには浸透した名称となっていて、そこに由来する。

作成当初は特に公式のプロフィールを作成・公開してはいなかったが、後に図1、図2のようなプロフィールを公開した。



図1 がまじゃんぱーのプロフィール



図2 ちゅーりっぷさんのプロフィール

### 3. どうして生まれたの?

キャラクターの作成について具体的に動き出し

たのは平成 17 (2005) 年度の後半になってからだが、きっかけは幾つかある。

まず、当時から先行している事例がいくつかあり、それぞれ有効に活用され人気を博していたという事実があった。例えば国立情報学研究所の CAT/ILL のページに登場していたプワンとピヨ太郎<sup>4)</sup>、北海道大学の機関リポジトリ HUSCAP のはすかつぷちゃん<sup>5)</sup> などである。それら先行事例を鑑み、職員の間でもキャラクターが欲しいという話が出ていた。また、当時電子図書館システムの更新を控えており、使い勝手や Web ページ、特に附属図書館のトップページが大きく変わることが決まっていたため、インパクトと浸透力のある広報手段が必要とされていた。さらに偶然にも広報関連に使えるお金があったため、キャラクター作成の動きが俄かに具体化することとなった。

#### 4. 生みの苦しみ？

これらの状況を受けて、キャラクター作成の有志一同の活動が開始された。特にワーキング・グループといった公式のものを結成したわけではなく、キャラクターに興味のある職員が集まって非公式に形成された、まさに「有志」であった。特に担当を決めず各々が得意分野で自発的に役割を担当する形で、勉強会というよりはむしろ同好会に近い雰囲気メンバーであった。この有志メンバーでミーティングを行い、最初にキャラクターの使用目的や使用イメージを固めていった。Web ページで使いたい、Q&A で使いたい、グッズも作りたいなどである。その後、その目的・イメージに合わせたコンセプトを作成した。Q&A で使用するなら 2 人一組のキャラクターがよい、また 2 人一組なら人間同士がよいのか、それ以外がよいのか、筑波大学附属図書館に相応しいキャラクターとして、どんな造形がよいのかなど、ブレインストーミングを重ねていった。その結果、2 人一組でガマ (カエル) モチーフの男性形とチューリップ (花) モチーフの女性形という基本コンセプトが出来上がった。また偶然にも有志の中に絵心のある人が居て、このコンセプトを実際

に図 3、図 4 のようなラフスケッチに描き起こすことができた。これは具体的な設定を詰めるに当たって重宝しただけでなく、後に上層部への説明を行ったり業者にこちらのキャラクターのイメージを伝えたりした時にも非常に役立った。



図 3 がまじゃんぱーのラフスケッチ



図 4 チューリップさんのラフスケッチ

このようにキャラクターの作成そのものは楽しく、また比較的スムーズに運んでいったが、上層部への説明には気を遣った。ただ「キャラクターを作りたい」と言うだけでは許可が出ないと予想されたため、附属図書館全体の広報戦略の一環という位置付けを行うことを考えた。具体的には「ブランディング戦略」と題したプレゼンテーションを作成し、電子図書館システム更新に際して、新電子図書館システムを含めた附属図書館ブ

ランドと広報戦略の再構築が必要であり、附属図書館ブランドと広報の強化の一策として、先行事例を挙げた上でキャラクターが有効である旨を主張した。幸いにして当時の上層部に理解があり、予想よりも容易に作成の許可が下りた。

しかし、その後造形が具体化し最終的な許可を取るに際して、問題が何点か指摘された。特にチューリップモチーフの女性形について、「よく見かけるような造形で権利面には問題がないか」「やや幼く見えるため大学図書館のキャラクターには相応しくないのでは」などの指摘が行われ、ガマモチーフのキャラクターだけでよいのではという話が出てきた。Q&Aなどで使える2人一組のキャラクターというコンセプトであるため、単独では用途に制約が生じる点を主張し、引き続き2体のキャラクターの必要性を説いた。一方で指摘のあったチューリップモチーフの女性形には眼鏡を追加する等、造形の修正を行い、大学図書館のキャラクターとして違和感を持たないようにした。また、呼称もそれまで「ちゅーりっぷちゃん」と仮称していたものを「ちゅーりっぷさん」と変更し、当初のコンセプトを維持しつつも上層部の理解も得られるよう調整を図っていった。

なお名称について補足すると、チューリップモチーフの女性形は、学内に比較的浸透していた筑波大学附属図書館の愛称である「Tulips」に由来し「ちゅーりっぷさん（当初は「ちゃん」）」とすることは、早い段階から自然と決まっていた。またガマモチーフの男性形についても、ほぼ同時期に「がまじゃんぱー」という名称が仮決定していた。当時、電子図書館システムの更新が行われていたことは前述したが、ある時、仕様策定委員の教員同士で電子図書館システムについて、片方はシステムの名称（愛称）が重要であるという立場、もう一方は機能が十分であれば名称は重要ではないという立場で深夜にメールで議論が行われた。その議論において、名称が重要であると主張する教員が「名称が重要でないなら、新システムは『がまじゃんぱー』などという名称でも構わないのか」と発言したのだが、あまりにインパクトの強い名前だったため関係者の記憶に残った。そ

のため、ガマモチーフの男性形キャラクターの名称を考えた際に、誰ともなくこの「がまじゃんぱー」が提案され、仮称を経て採用されるに至った。筑波大学附属図書館の「飛躍」の象徴、機関リポジトリのコンテンツをジャンプして獲得してくる等の意味を後付で考えたが、語呂の良さもあるのか、意外なほど抵抗無く受け入れられた印象がある。

また、命名当時は特に気にしていたわけではなかったのですが、結果的にではあったが、「職員がカウンターや電話で口にしても恥ずかしくない」程度の名称になっているのではないかと考える。なお、どちらも平仮名表記としたのは、キャラクターとしての「遊び」「柔軟さ」を意識してのことだったが、表記のしにくさ、読みにくさという問題が残った。

## 5. BC と AD の違いは？

以上のような経緯を経て平成18（2006）年4月に筑波大学附属図書館にキャラクターが登場したが、その時点では新電子図書館システムの導入直後ということもあり、有志を含め関係者がシステムやWebページの調整、利用案内の作成などに追われることになり、大々的な登場キャンペーンを打つことはできなかった。しばらくは有志を中心に、館内の掲示物や配布物にワンポイント程度で登場させるに止まった。しかし、やがて職員の間でも認知が高まり「キャラクターを使いたい」という声が聞こえるようになり、キャラクターの使用は有志以外へと広がっていった。

その点でキャラクター登場以前と登場以後（見出しでは、紀元前と紀元後にちなんで「BC（Before Characters）」と「AD（After Dawn）」と表記してみた）を比べると、やはり職員の間で意識の変化が起こったように感じられる。それまでは事務文書の延長という雰囲気が強かった掲示物や配布物から、余白にキャラクターをワンポイントで入れたり、最初からキャラクターを入れることを前提に作ったりするようになる等、利用者の目に留まるもの、見て楽しいものを作ろうという意識が高まっていった。必然的にキャラクター以外

の部分、例えばフォントやレイアウト、色使いなどにも配慮し、デザイン性を強く意識したものが作られるようになっていった（図5）。キャラクターの画像を使いやすい形式に加工して共有フォルダに置いて、職員の誰もが自由に使えるようにしておいたということもあるが、職員が積極的にかつ楽しんでそれらを使ってデザイン面にも配慮した掲示物や配布物を作成するようになった、という事実は興味深い。キャラクターだけが理由とは言えないが、職員の間を広報意識が高まる過程においてキャラクターが大きな役割を果たしたことは確かと言える。



図5 デザイン性を意識した掲示物の例

## 6. 評判はいかに？

キャラクターに限らないが、新しいものを作った時にまず気になるのは、外部の評判である。しかし筑波大学附属図書館のキャラクターに関して、利用者側からの反応は当初は皆無であった。当時、新システムの調整に注力しており、またキャラクターの展開も当初は手作りの掲示物や配布物がメインということもあって、地味な浸透を図るという方法しか採れなかったことに起因する。「このキャラクターは何ですか？」などの何らかの反響があれば、そこから展開をするという

ことも考えられたが、当初は本当にキャラクターを使って作成した掲示物や配布物を、そもそもちゃんと見てくれているのか不安になるくらい無反応であった。

事態が大きく動いたのは、筑波大学図書館情報メディア研究科と附属図書館の研究開発室が共同で作成した「図書館情報リテラシー教本」という情報リテラシーの教科書にキャラクターが採用されたことがきっかけだった（図6）。このリテラシー教本はまず「試作版」が作られたが、その試作版を図書館情報学図書館に配架したところ、とある学生が自身のブログで取り上げ<sup>3)</sup>、それがきっかけでキャラクターが広く知られるようになっていった。

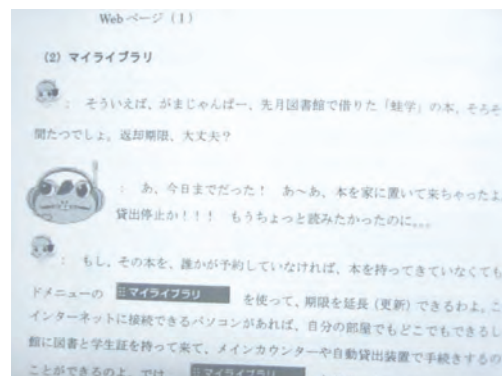


図6 「図書館情報リテラシー教本」での使用例

実はリテラシー教本でのキャラクターの使われ方は、こちらの想定からやや外れた部分もあったのだが、それでも2人一組で掛け合いを行うなど当初のコンセプト通りの使用であり、しかも掛け合いやりテラシー教本そのものの内容の充実度が高かったこともあり、結果として非常に良いプロモーションとなった。またキャラクターを取り上げたブロガーも、その後引き続いてキャラクターを自主的に取り上げてくれており（附属図書館からは依頼などは一切行っていない）、図らずも図書館外に強力なサポーターを持つ形となった。このブロガーが居なければ、筑波大学附属図書館のキャラクターがここまで知名度を得ることは無かったと思われる。

当初に想定した流れではなかったものの、結果

としては非常によい形で学内外へのアピールが行われ、概ね好意的な評価を得て現在に至っている。

## 7. どんな風に使われているの？

筑波大学附属図書館の Web ページでは、主に以下の箇所で使用されている。

- つくばリポジトリ（機関リポジトリ）の FAQ ページ（図7）
- 「週5図書館生活、どうですか？」およびプロモーションビデオ「週5図書館生活、どうですか？ The Movie」（図8）
- Prism（図書館からの役立つ情報ページ／パンフレット）（図9）

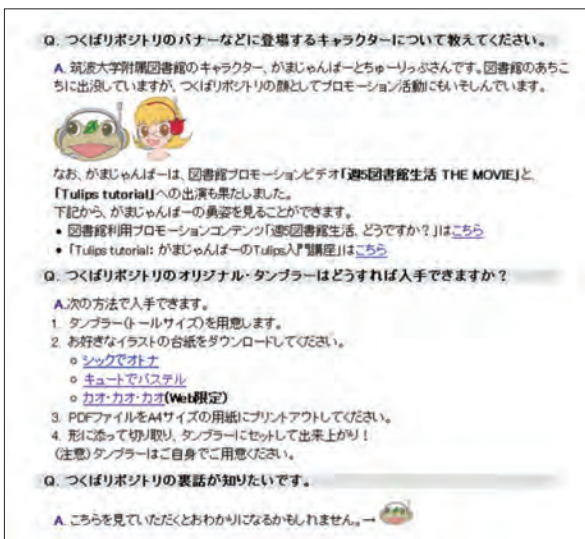


図7 つくばリポジトリの FAQ ページ



図8 「週5図書館生活、どうですか？」の Web ページ



図9 Prism（図書館からの役立つ情報）

その他、筑波大学附属図書館外の「ファン」の手によるブログ記事や Twitter のつぶやき等でも、姿や名前を見かけることもあると思われる。また現時点では特に画像の使用を規制していないこともあり、Twitter のアイコンに筑波大学附属図書館のキャラクター画像が加工の上で使用されている例も散見される。

一方、印刷物としては先述の「図書館情報リテラシー教本」をはじめ各種オリエンテーションでの配布資料等のテキスト類、各種掲示物や配布物等にもワンポイントとしてよく利用されている（図10）。特に作成意図や用法を全職員に対して詳細に説明したことは無かったが、自然と二人一組の掛け合いといった用法が浸透しており、二人一組というコンセプトが間違っていなかったと思える場面が多く見られる。

また、オープンキャンパスでは高校生に配るうちわ（図11）や文庫本カバーの図柄として例年がまじゃんぱーの顔を使用しているが、高校生にも非常に人気である。その他、機関リポジトリのプロモーショングッズにも使用され（図12）、いわゆる「キャラクターグッズ」としての展開も行われている。

最近では、国立情報学研究所の CSI 事業の結果発表などでポスターを作成し、学内外で展示・発表する機会も多いので、そこでもキャラクターを使用することがある（図13）。内容にもよる

が、キャラクターがいることで人目を惹く効果があるようだ。

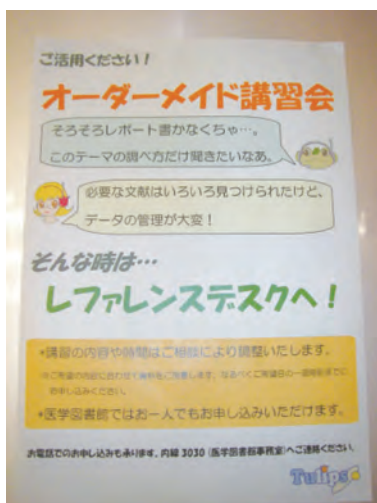


図 10 キャラクターを使用した掲示物の例



図 11 キャラクターグッズの一例（うちわ）



図 12 キャラクターを使用した機関リポジトリのプロモーショングッズ (CD-R)

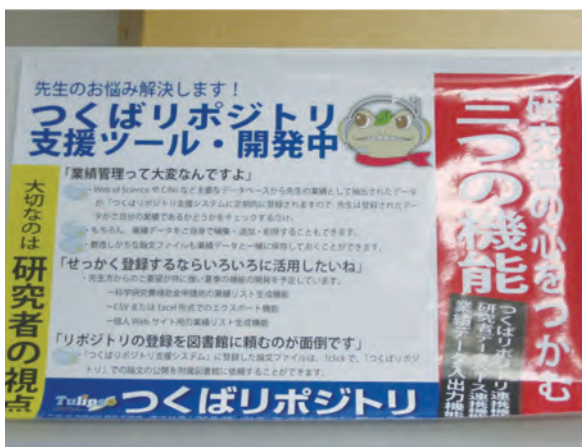


図 13 キャラクターを使用したポスターの例

## 8. 考察

誕生から4年を経過して、掲示物・配布物等にもごく普通に用いられるようになり、また予想外の人気を得るに至り、キャラクターとしては非常に成功したと言える。しかし経緯で述べたように、その誕生は多分に幸運に支えられた部分が大きかった。また知名度を得られるようになったきっかけも、附属図書館の広報によるものではなく、図書館外に強力なサポーターがついたという偶然によるものであった。しかしその幸運と偶然を生かすことができたのは、キャラクター作成の有志をはじめとする附属図書館職員が広報体制に少なからず問題意識を抱き、改善の機会を窺っていた点が大きかったと考える。

また、キャラクター自体も比較的線がはっきりとして、いわゆる「ゆるキャラ」とは若干異なった造形であったことも、広く受け入れられた理由であると考えられる（キャラクター全体として「ゆるキャラ」に該当するかどうかは別の問題となるだろう）。また、がまじゃんぱーの方が比較的人気なのは、一般的な傾向として人間系より動物系のキャラクターの方が好まれることに依ると考えられる。ただし、学生や他大学の図書館関係者などから話を聞く限りでは、決してちゅーりっぷさんに人気が無いということではないようだ。

筑波大学附属図書館のキャラクターが人気になった理由は上記のようなものが推測されるが、あくまで職員から見た印象であり、特に客観的な

証拠があるわけではない。異論も多くあるだろう。今後のキャラクターの安定的な活用を考える上では、学生・教員へのヒアリング・調査などを通じて、なぜここまでがまじゃんぱーとちゅーりっぷさんが受け入れられるようになったかの詳細な分析が必要であると考え。

## 9. 課題と今後の展開など

キャラクターの誕生当初は設定が確定していなかったため使用の際に若干の混乱が生じた。例えば、先述のとおりリテラシー教本で一部想定外の利用があったことなどである。またそれに関連して、明文化された利用ガイドラインの不備が指摘されている。現在のところ、使用するのほとんど附属図書館の職員に限られているため、目が届きやすく、仮に不適切と思われる利用があっても、比較的早い段階でフォローできると思われる。ただここ最近、附属図書館外で「筑波大学附属図書館のキャラクターを使用したい」という問い合わせが来るようになった。また先述のとおり、Web上などでは、キャラクターの画像を加工して使用している例も確認されている。

現時点では、問い合わせには個別に対応しており、また幸い問題となる利用は見つかっていない。しかし、仮に問い合わせが頻繁に来るようになったり、問題があると見なされる利用が発見されたりした場合に備えて、ガイドラインの整備を考慮する必要がある。しかし、仮にガイドラインや規則の整備を行う場合には、利用促進と規制の間でバランスを取る必要があり、相当難しい判断が必要になると考える。

また、キャラクターを今後一層活用していく上では、現状の立ち絵と表情のバリエーションだけでは不足しているという問題もある。姿や表情のパターンが限られてしまうため、見飽きてしまう可能性がある。データの元ファイルも納品されているので、必要に応じて自前でバリエーションを作成することは可能だが（すでに数パターンを作成済で、使用されている）、品質ではやや劣ってしまう。

加えて、がまじゃんぱーに比べてちゅーりっぷ

さんの人気が一見低調のように見えるので、そちらの底上げも今後の課題である。決して人気が無いわけではないようなので、何らかの形でちゅーりっぷさんを活用できるような企画を考えていきたい。

上記のように、キャラクターを使用する上で抱えている問題は少なくないが、それでも筑波大学附属図書館の職員がキャラクターを積極的に活用していく状況は今後とも続いていくと思われる。更に職員による利用だけでなく、学生や教員とのコラボレーション<sup>6)</sup>などによって、活用の方や形態を広げていきたいと考えている。様々な場面で作成者も想像しなかった活用が生み出されていく雰囲気大切にしつつ、より広い活用とそれによる認知度の更なる向上を目指し、最終的には筑波大学附属図書館の知名度を高めていきたい。

また、類似例<sup>7)</sup>を見る限りハードルは相当高いと思われるが、大学公認のキャラクターとなる道も模索していくつもりである。さらに、今後海外への訪問や発表の機会も増えると予想されるが、筑波大学附属図書館のプレゼンスを発揮するのに併せてキャラクターの海外進出も図り、双方の世界的な知名度の向上にも努めていきたい。世界中でがまじゃんぱーとちゅーりっぷさんの姿が筑波大学附属図書館と結びつくようになるのが理想である。

## 10. おわりに

筑波大学附属図書館におけるキャラクターの存在意義とは、見る人に親しみや楽しさを与える存在であると考え。同時に、職員にとっても使うことの楽しさ、キャラクターを通じた見る人とのコミュニケーションを提供してくれる存在である。筑波大学附属図書館ではまだほとんどできていないが、キャラクターとは、使い方によっては利用者～図書館間の双方向コミュニケーションツールともなり得るものである<sup>8)</sup>。

このようなキャラクターとの良好な関係を今後も維持しつつ、新たな展開も模索し、文字通り筑波大学附属図書館の「ブランド」として通用するよう、今後とも永くがまじゃんぱーとちゅーりっ

ぷさんとともに歩んでいきたい。

本稿は、平成 22 年 8 月 26 日に行われた東海地区大学図書館協議会研究集会で発表した内容に、若干の加筆・修正を加えたものである。発表に使用したスライド (PDF ファイル) は、以下の URL に置いた。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/~garu/100826.pdf>

#### 注・引用文献

- 1) 嶋田晋. 特集わが図書館をブランドにするために！：“ちゅーりっぷ”さんと“がまじゃんぱー”はこうして生まれた. 大学の図書館. 2008,vol.27, no.9, p.174-176.
- 2) 嶋田晋. “がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんの生態～筑波大学附属図書館でのキャラクター活用事例～”. つくばリポジトリ. 2010-04-27.  
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/handle/2241/105066>, (参照 2010-10-12)
- 3) Min2-fly. “『図書館情報学リテラシー教本：試作版』”. かたつむりは電子図書館の夢を見るか. 2007-03-19.  
<http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/20070319/1174303941>, (参照 2010-01-12)
- 4) 国立情報学研究所. “chara\_prof.jpg”. 目録所在情報サービス.  
[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/common/images/chara\\_prof.jpg](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/common/images/chara_prof.jpg), (参照 2010-10-12)
- 5) 北海道大学附属図書館. “キャラクター紹介”. 北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP.  
[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/character\\_info.html](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/character_info.html). (参照 2010-10-12)

6) 筑波大学 宇陀・松村研究室, 筑波大学附属図書館. “近未来書籍カフェ”. 近未来書籍カフェ.  
<http://kinmirai.tumblr.com/>. (参照 2010-10-12)

筑波大学学園祭「雙峰祭」にて、本学図書館情報メディア研究科の宇陀・松村研究室と附属図書館が共同で行った企画である。がまじゃんぱーの着ぐるみが制作・投入された。なお着ぐるみとの関係は不明だが、来場者の投票による雙峰祭グランプリ (最優秀企画) を獲得した。

- 7) 奈良教育大学. “奈良教育大学 イメージキャラクター取扱要綱”. 奈良教育大学.  
[http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/nakkyon\\_rules.pdf](http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/nakkyon_rules.pdf). (参照 2010-08-18)
- 8) 呑海沙織. パブリック・リレーションズ戦略の実際 マスコット・キャラクターと選書ツアー. 情報管理. 2009, vol. 52, no. 6, p.370-374.

#### 参考文献

- 1) Lifo. “図書館キャラクター”. Lifo-wiki.  
<http://www.lifo-club.org/index.php?%BF%DE%BD%F1%B4%DB%A5%AD%A5%E3%A5%E9%A5%AF%A5%BF%A1%BC>. (参照 2010-08-18)
- 2) kumori. “トキャラ図鑑”.  
<http://kumori.info/data/characters.html>. (参照 2010-08-18)
- 3) 餌取直子. 特集 図書館を見せる：キャラクターに託したメッセージ—おかめちゃんを通してお茶大図書館が伝えたいこと—. 図書館雑誌. 2010, vol.104, no.4, p.210-211.
- 4) 和光大学附属梅根記念図書・情報館. 特集 図書館を見せる：ロゴ・キャラクターから広がる図書館の試み. 図書館雑誌. 2010, vol.104, no.4, p.212-213.